

政治学リサーチ・デザイン特殊研究ファイナル・ペーパー

大韓民国国会の座席割当の決定要因に関する研究
—大韓民国第18代国会を中心に—

提出日：2013年8月20日

法学研究科政治学専攻
博士過程前期課程
123J009J ソンジエヒョン 宋財法

目次

1. 問題意識	2
2. 先行研究	2
3. 仮説	2
4. データおよび操作化	3
(1) 座席	4
(2) 政党	4
(3) 年齢	5
(4) 委員会.....	5
(5) 当選回数	6
(6) 地域	6
(7) その他の変数	7
5. 分析	7
(1) 方法およびモデル	7
(2) 分析結果	8
6. 結論	11
7. 今後の課題	11
8. 参考資料	12

1. 問題意識

韓国の国会の本会議中継を見ると、いわゆる「大御所の議員」が最後列に座っていることが確認できる。最後列は他の議員の視線を気にせず、心理的な安定感を得られる列であり、他の議員の行動がよく観察できる事から多くの議員にとって選好座席と言えよう。しかし、これは最後列に限られた現象なのか、もしくは前列であるほど当選回数少ない議員が割り当てられているのかは明らかになっていない。また議員の半分程度を占める初当選議員（49.3%）の議席配置は当選回数だけでは特定が不可能である。したがって本稿では、同じ当選回数の議員の間でどのような座席配置が行われているかを通して議員間の位相の違いを把握することを本稿の目的とする。国会本会議場の座席の割り当て方式は国によって異なるが韓国の場合は自由である。しかし、自由だからといって誰もが自分が好きな席に座る事はできない。つまり、この座席の割り当てには党の意思であれ、議員個人の勘であれ、なんらかのメカニズムが働いていると予想するのは自然であろう。この座席の割り当てメカニズムが議員間の軋轢、位相の違いの具現であるとするなら、本稿はそれを明らかにする事を目的とする。

2. 先行研究

国会の座席割り当てに関する学術的研究結果は見当たらない。しかし、中央日報によると最後列には大御所の議員が座り、他の議員の行動を監視する長所以外にも、途中で会議室から負担なく離脱できるという長所があるという。これに対して最前列は出入りが不便であり、物理的な衝突がある時には最も被害の出る列であるため忌避席と呼ばれる。また座席の割り当ては各政党の院内指導部が指定するため議員個人の選好が反映されるとは言いがたい¹。

3. 仮説

国会議員の影響力に最も密接な関係を持つ要因は当選回数である。当選回数が増えるにつれ政党指導部に所属、または接触する機会が多くなるため自身が選好する座席を得る可能性が高いと言える。したがって

H₁ : 当選回数の多い議員であるほど、後側の座席に配置される。

また中央日報で報じられたように人気委員会に所属する議員は他の議員と比べて相対的に前列に座る可能性が高い。したがって忌避委員会に所属する議員は相対的に後列が割り当てられる傾向があると予測される。とくにこのような傾向は当選回数1回の議員において顕著に現れると思われる。したがって

H₂ : 人気のある委員会に所属している議員は前列に配置される。

¹ 『中央日報』2012年7月10日朝刊「議長席すぐ前は忌避席…人気常任委所属初選の席」

韓国の議会は日本と同様、小選挙区比例代表並立制を採用する。299 議席のうち 54 議席が比例代表であり、日本のようなブロック選挙区ではなく全国の拘束名簿式である。小選挙区から選出された議員は比例代表から当選した議員に比べ激しい選挙戦を通して当選を果たしたため、議席割り当てにおいて優遇されると予想される。したがって

H₃ : 比例代表で当選した議員は前列に配置される。

韓国における選挙政治を特徴付ける要因は「地域主義」である。これは特定の政党がある地域において圧倒的な支持を獲得する傾向である。与野党性向の分布が比較的均一な首都圏に比べ、^{チョンラ}全羅・^{ギョンサン}慶尚地域はほとんどの議席を革新系野党と保守系与党が独占する様相が 1987 年の民主化後の初選挙から続いてきた。例外はあるものの、そのほとんどが無所属革新・保守系候補者であり、当選後は元の政党に再入党する。このような状況においては、首都圏の議員の方が基盤地域選挙区の議員より激しい選挙戦を行う事は自然であり、再選という面からも不利な点がある。したがって

H₄ : 再選に有利な基盤地域から当選した議員は前列に配置される。

韓国の国会は男性中心の組織とも言えよう。また 6 割から 7 割の女性当選者が比例代表から選出されている。これは比例代表の名簿作成時、奇数に女性を義務的に割り当てさせる現在の法律によるものである。ここでは二つの考え方が可能であろう。一つは女性を優遇する事によって女性を後列に配置させる考え方であり、もう一方は、国会は男性中心組織であるため女性を後列に配置させる考え方である。したがって

H₅ : 女性議員は後列(もしくは前列)に配置される。

年齢と当選回数は強い相関関係があると予想される。したがって年齢の座席割り当てへの影響力を検証する際にこの変数を直接用いるのは困難であろう。しかし、当選回数 1 回の議員のみを対象とする場合、このような多重共線性の問題は現れないはずである。儒教の影響を受けた多くの東アジアの国家と同様、韓国も年齢による上下関係があらゆる組織において確立している。したがって

H₆ : 年齢が高いほど後列に配置される。

4. データおよび操作化

本稿で用いるデータは 2008 年の選挙によって選出された大韓民国第 18 代国会から得られた。国会議員の定員は 299 名であるが、そのうち座席の識別が確認できた 280 名がデータに含まれている。

(1) 座席(rows)

座席の配置は国会文書庫で確認できるが、地理的な要因により確認が不可能であり、国会文書庫に資料を要請したが得られなかった。そのため座席の識別は第18代国会の写真を収集し、その写真から議員の座席コード(1~10)を割り当てたが、19名に関しては写真からも識別ができなかったため分析対象からは除外した。また当選回数と関係なく最前列の座席が当てられる国会議長は固定されているため除外した。

韓国の国会本義会場は4つのブロックに分かれている。議長席から見て右側の3つのブロックは1列から10列までであるが、左側のブロックは1列から7列までである。したがって左側のブロックに座席の関しては7点尺度を10点尺度へ再構成した。計算式は

$$\frac{X - 1}{7(\text{元の尺度}) - 1} \times 10$$

である。やや強引な方法ではあるが、左側ブロックの6、7列目に民主統合党の当選回数が多く、重要役職に就いている者が多数配置されているため、このような措置をした方が望ましいと判断した。これらの基準によってコーディングされた結果は以下のようである。

表1
各列における議員の度数分布

列	度数	相対度数
1	9	0.037
2	10	0.0412
3	20	0.0823
4	22	0.0905
5	24	0.0988
6	27	0.1111
7	31	0.1276
8	29	0.1193
9	37	0.1523
10	34	0.1399
Total	243	1.0000

(2) 政党(party)

本稿では最前列から最後列まで議員が割り当てられた二つの政党のみを対象とする。また無所属や一部の政党に関しては以下のような基準を用いて二大政党に統合した。まず親朴連帯(PPC)の場合、親李明博系イミョンパクが主導した党内公認を巡る争いから脱落した親朴バックネ権恵系の議員たちで結成された一時的な組織であり、選挙後まもなくハンナラ党(GNP)と統合したため、データにおいても親朴連帯所属議員の政党コードもハンナラ党と統合した。またその他にも、元々は二大政党に所属していたが公認を得られず無所属立候補した保守・革新系無所属も立候補前に所属していた政党のコードを割り当てた。実際、こ

のような議員の多くが選挙直後に再入党し、再入党前の座席も前所属政党と近接していたことが確認できた。この操作化によって分析の対象となったケースは 243 名である。

表 2
分析対象議員の度数分布

政党名	議員数
ハンナラ党(GNP)	156 名
民主統合党(DUP)	87 名

(3) 年齢(age)

年齢は中央選挙管理委員会の当選者情報から得られた出生年度を用いた。今はほぼ見られないが 1970 年代以前に生まれた人の一部は実際の誕生日と住民登録上の誕生日が異なる場合がある。本稿ではその確認に限界があるため住民登録上の記録に基づいてコーディングした。年齢は多くの国で採用されている数え方(international age)ではなく、韓国式の数え方を用いた。韓国では生まれた瞬間から 1 歳になり。つまり 12 月 31 日に生まれた者は翌日に 2 歳になる。コーディングの基準は 2009(対象年度)－出生年度＋1 である。

(4) 委員会

韓国の国会は常設委員会と特別常設委員会があり、本稿では常設委員会のみを対象とした。第 18 代国会の委員会の個数は 16 であり、全てをダミー変数化(com1 から com16)した。しかし前章において提示した仮説を検証するためには人気委員会と忌避委員会のダミー変数化が必要となる。この基準には様々な異見があろうが、本稿では朴天吾(1998)が第 15 代国会議員を対象に行った選好・忌避委員会調査で得られた基準に従う。朴は人気委員会の基準は委員会傘下機関の数が多く、各種の経済利益的事案と関係するか、選挙区への地域事業誘致に関連する委員会であると指摘した²。韓国の国会の常設委員会の数や名称は 4 年ごとに若干の変動があるものの、大きな変化がないため、ここではその基準をそのまま採用しても差し支えないと判断した。実際、ガ・サンジュン(2009, 2012)が第 18 代国会議員を対象に行った委員会研究でも若干の変動はあるものの、朴の基準は第 18 代議会にも適用できる事を明らかにしている。したがって朴が提示した基準を第 18 代国会の委員会にそのまま適用しダミー変数化(popcom と unpopcom)した。その基準は以下の通りである。また一部の委員会においては複数の所属が認められているため、人気委員会と忌避委員会両方に所属する議員が 4 人いた。これらケースに関しては別途の処理を行わなかった。

² これは Fenno(1973)のアメリカを対象とした研究ともほぼ符合する。彼によると議員は議会内の影響力が認められる委員会、選挙区への利益誘導を通じて再選に有利な委員会、または所管分野に興味を持つ委員会を選好すると主張する。しかし韓国は委員会入会への制限がアメリカより厳しくなく、先任優先主義で委員会を割り当てるアメリカより議員の特性としての委員会がより鮮明になると思われる。

表 3
委員会一覧およびコーディング基準

変数名	委員会名	委員数	基準
Com1	国会運営委員会	24 (20)	忌避
Com2	法制司法委員会	16 (13)	忌避
Com3	政務委員会	24 (18)	
Com4	企画財政委員会	26 (18)	人気
Com5	外交通商統一委員会	29 (24)	人気
Com6	国防委員会	18 (8)	
Com7	行政安全委員会	24 (21)	
Com8	教育科学技術委員会	21 (17)	人気
Com9	文化体育観光放送委員会	28 (19)	
Com10	農林水産食品委員会	19 (13)	
Com11	知識経済委員会	25 (17)	
Com12	保健福祉家族委員会	24 (18)	
Com13	環境労働委員会	15 (12)	忌避
Com14	国土海洋委員会	29 (24)	人気
Com15	情報委員会	12 (9)	
Com16	女性委員会	16 (13)	忌避

Note: 括弧内は分析データ内の委員数

(5) 当選回数(win)

当選回数の基準は制憲国会以来、民選選挙において選出された回数を数えた数値である。したがって大統領の任命により選出された第4共和国における統一主体国民会議の議員と維新政友会(第4共和国の国会の3分の1は大統領任命であり、これは維新政友会のメンバーで充当した)は当選回数には考慮しなかった。また連続当選などの当選の形態は別途のコーディングを行わなかった。最小値は1であり最高値は6である。

表 4
当選回数の度数分布

当選回数	度数	相対度数
1	117	0.4815
2	66	0.2716
3	38	0.1564
4	16	0.0658
5	4	0.0165
6	2	0.0082
Total	243	1.0000

(6) 地域(region)

地域は該当政党が圧倒的な得票率をあげる地域から選ばれた議員に1を割り当て、ダミー変数化した。基準は以下に従う。

表 5
基盤地域における所属議員の度数分布

政党名	基盤地域	度数	比率
ハンナラ党	慶尚南道、慶尚北道、 ブサン ^{ブサン} 釜山広域市、大邱広域市、 ウルサン ^{ウルサン} 蔚山広域市	52	33.33%
民主統合党	全羅南道、全羅北道、 グァンジュ ^{グァンジュ} 光州広域市	29	33.33%

Note: 比率は該当政党の当選者の内、基盤地域当選者の比率

しかし、これに該当しないが、特定政党が有利と言われる地域がある。代表的な選挙区はソウルの江南3区と言われる地域で江南区^{ガンナム}(M=2)、瑞草区^{ソチョ}(M=2)、松坡区^{ソンバ}(M=3)がある。この地域には社会経済的に上位に属する人が多く居住している地域であり、伝統的に保守系政党の基盤地域と言われてきた。その他にもソウル近郊の城南市盆唐区^{ソンナム ブンダン}(M=2)などがあるが、これらの地域は基盤地域として扱わなかった。その理由は、これらの地域で保守系政党が強い得票力を示してきたことは確かであるが、革新系政党の支持者も数多く混在し、安定的な得票を確保してきたためである。

(7) その他の変数

その他の変数としては性別(sex)と小選挙区(smd)がある。これらに関しては中央選挙管理委員会の当選者名簿・情報に従ってコーディングをした。性別ダミーは女性に1を割り当て、小選挙区ダミーは小選挙区当選に1を割り当てた。

5. 分析

(1) 方法およびモデル

従属変数である列(rows)は順序カテゴリカル変数であるため順序ロジット分析が適切だと思われるが、本稿では基本的に重回帰分析を行う。重回帰分析を用いる理由としては1)Long(1997)は経験的にロジット分析に用いられる最尤推定法は通常、200以上のケースを用い、変数が一つ追加されるごとに20ケースが追加的に必要であることを指摘した事^{3,4}、2)筆者がまだ最尤推定法の分析に対する理解が乏しい事である。しかし、本稿では重回帰分析の分析とともに順序ロジット分析の結果も提示する。

本稿では6つのモデルを用いる。最初は全てのケースを分析対象とし従属変数としては議員の座席列(rows)を、独立変数としては当選回数(win)、地域(region)、性別(sex)、人気委員会(popcom)、忌避委員会(unpopcom)、小選挙区(smd)を投入する(モデルI)。しかし当選回数と年齢は強い相関関係による

³ John Scott Long. (1997). Regression Models for Categorical and Limited Dependent Variables. Sage Publication

⁴ また、Acock(2012)は単純モデルのロジスティクス分析には最低100ケース揃う事が望ましいと指摘した。

多重共線性の問題が生じ得るため、年齢を除去した分析も同時に行う(モデル II)。次は当選回数 1 の議員のみを対象に、上記のモデルから当選回数変数を除去したモデルを構築する(モデル III)。またモデル III において政党ごとに分けて分析する(モデル IV、V)。これによって政党ごとに座席割り当ての基準の違いの存在が確認できると予想される。最後にこれらのモデルを順序ロジット分析で行い、結果のみを提示する。

(2) 分析結果

最初に列ごとの議員の特性の記述統計を提示する。結果は以下の表 6 である。なお、変数の種類によって異なる統計量を用いた。

表 6
各列の記述統計

rows	win	age	sex		region		smd		popcom		unpopcom		N
			0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	
1	1.22	49.33	8	1	5	4	1	8	6	3	7	2	9
2	1.5	51.6	9	1	8	2	1	9	3	7	9	1	10
3	1.75	53.7	19	1	15	5	0	20	7	13	15	5	20
4	1.59	56.63	14	8	18	4	7	15	16	6	16	6	22
5	1.38	56.04	20	4	20	4	8	16	17	7	20	4	24
6	1.74	56.04	25	2	14	13	3	24	18	9	23	4	27
7	1.48	55.39	26	5	19	12	4	27	24	7	25	6	31
8	1.59	55.45	27	2	21	8	4	25	22	7	22	7	29
9	1.81	54.05	32	5	23	14	5	32	27	10	24	13	37
10	3.65	60.06	31	3	19	15	2	32	20	14	30	4	34

Note: 連続変数の統計量は算術平均を、二項変数の統計量としては度数分布を用いた。

次に全ての議員(N=243)を対象とした上で、全ての変数を投入したモデル I と年齢変数のみを除去したモデル II を検証する。結果は以下の表 7 である。

表 7
全ての議員を対象にした重回帰分析の結果

Variable	モデル I			モデル II		
	B	SE B	β	B	SE B	β
win	1.065	.159	.443***	1.112	.148	.463***
sex	-.603	.539	-.079	-.663	.534	-.086
age	.018	.023	.016			
region	.307	.343	.056	.356	.338	.065
smd	-.600	.554	-.081	-.718	.536	-.097
popcom	-1.027	.335	-.188*	-1.012	.335	-.185*
unpopcom	.264	.394	.042	.252	.393	.040
_cons	4.259	1.375		5.280	.530	
R ²		0.221			0.219	
Adj. R ²		0.198			0.199	
N		243			243	

† p < .1. * p < .05. ** p < .01. *** p < .001.

このモデルにおいて有意な影響力が認められた変数は当選回数(win)と人気委員会変数(popcom)のみである。この結果は年齢変数を除去したモデル II でも同様に確認する事ができる。また多重共線性の問題が生じると予想した当選回数(win)と年齢(age)変数の間には多重共線性が確認できなかった⁵。これは当選回数(win)変数の分布が均一ではなく⁶、当選回数 1 回の議員が約半分を占めているためであろうと推測するが、筆者の方法論的知識の乏しさによりモデル II を同時に用いる事にした。しかし両モデルはほぼ同様の結果を示しているため、モデル I を基準に説明する。変数の中で特に当選回数は最も大きい影響力を持つ変数である事が確認できる。これは仮説 H1 と H2 を部分的(人気委員会のみ)に採択する。しかし、議員のほぼ半分を占めている当選回数 1 回の議員において当選回数は座席割り当ての基準になり得ないため、これらの議員のみを対象としたモデルを検証する必要がある。表 8 は上記のモデルの分析結果である。

表 8
当選回数 1 の議員を対象にした重回帰分析の結果

Variable	モデル III			モデル IV			モデル V		
	B	SE B	β	B	SE B	β	B	SE B	β
win	<i>(omitted)</i>			<i>(omitted)</i>			<i>(omitted)</i>		
sex	-1.551	.767	-.247*	-.898	.918	-.134	-3.275	1.363	-.577*
age	.007	.030	.022	.041	.033	.133	-.153	.072	-.375*
region	-.465	.511	-.089	-.565	.565	-.109	-.014	1.188	-.003
smd	-.576	.673	-.110	-.186	.780	-.034	-1.305	1.365	-.254
popcom	-1.561	.527	-.279*	-1.802	.562	-.349**	-.581	1.443	-.070
unpopcom	.936	.490	.180 [†]	.377	.552	.076	2.540	1.018	.429*
_cons	6.396	1.827		4.469	2.001		15.607	4.379	
R ²		.148			.162			.423	
Adj. R ²		.101			.101			.259	
N		117			89			28	

[†]p < .1. *p < .05. **p < .01. ***p < .001.

二大政党所属の当選回数 1 の議員のみを対象とした分析の結果はモデル I、II の結果とやや異なる。最も大きな標準化係数を示した当選回数(win)が除去される事によって性別(sex)と人気委員会(popcom)が有意な値を示した。忌避委員会もほぼ有意な値(p=.059)を示したが有意水準 10%で有意とは言えない。また性別(sex)の係数は有意ではあるものの、H₅とは反対の符号である事が分かる。これは国会が男性中心の組織であり未だ男性の影響力が大きい事を示していると予想されるが、正確な原因については本稿では触れない。

また政党ごとの分析モデルであるモデル IV と V においては両党においてまったく異なる結果が得られた。保守系与党のハンナラ党所属議員のみを対象としたモデル IV においては人気委員会変数(popcom)のみが有意な結果を示した。しかし中道革新系野党の民主統合党所属議員のみを対象としたモデル V では、人気委員会変数(popcom)は有意な結果が得られなかった。だがモデル IV において有意でなかった性別(sex)、年齢(age)、忌避委員会(unpopcom)

⁵ 当選回数(win)と年齢(age)の相関係数は $r=0.3447(p<0.001)$ であり、VIF は 1.32、1.24 である。

⁶ 当選回数(win)の歪度は 1.238、尖度は 4.202 である。

変数が有意であった。性別(sex)の場合、モデル III と同様に負の係数を示す。また年齢も仮説 H₆とは反対の符号を示し、年齢の高い議員であるほど前列に割り当てられる事が分かるが、この原因については筆者としては特定が難しい。最後に忌避委員会(unpopcom)変数は今までのモデルとは異なり、有意な値を示し、仮説 H₂と一致する。ただし、このモデルにおいて注意すべき事は、モデル V の場合ケースが少ない(N=28)ため分析結果全体が疑わしい事であるう。

最後に以上のモデルを重回帰分析でなく順序ロジットで行った結果を提示する。

表 9
モデル I、II の順序ロジット分析結果

Variable	モデル I			モデル II		
	B	SE B	OR [†]	B	SE B	OR [†]
win	1.122	.148	3.072***	1.132	.141	3.124***
sex	-.569	.407	.566	-.591	.403	.554
age	.007	.018	1.007			
region	.271	.272	1.312	.295	.265	1.343
smd	-.649	.409	.523	-.692	.395	.501 [†]
popcom	-.817	.263	.442**	-.811	.262	.445**
unpopcom	.320	.315	1.377	.318	.314	1.375
χ^2		82.67			82.51	
df		7			6	
N		243			243	

Note : OR = Odds ratio

[†]p < .1. *p < .05. **p < .01. ***p < .001.

順序ロジット分析の結果は、重回帰分析の結果と小選挙区(smd)変数が有意水準 10%で有意である事を除いてほぼ同様である事が確認できる。次はモデル III、IV、V に対して順序ロジット分析を行った結果である。

表 10
当選回数 1 の議員を対象にした順序ロジット分析の結果

Variable	モデル III			モデル IV			モデル V		
	B	SE B	OR [†]	B	SE B	OR [†]	B	SE B	OR [†]
win									
sex	-1.431	.598	.239*	-.920	.706	.399	-3.610	1.321	.027**
age	-.004	.023	.996	.026	.027	1.207	-.148	.062	.862*
region	-.384	.409	.681	-.465	.468	.628	-.142	.992	.867
smd	-.550	.511	.577	-.202	.598	.817	-1.614	1.182	.199
popcom	-1.285	.424	.277**	-1.435	.468	.238**	-.836	1.447	.433
unpopcom	1.103	.409	3.014**	.644	.465	1.904	2.872	.983	17.680**
χ^2		21.81			15.60			18.09	
df		6			6			6	
N		117			89			28	

[†]p < .1. *p < .05. **p < .01. ***p < .001.

有意な変数は重回帰分析の結果とほぼ同様であるが、重回帰分析においては有意な結果を示さなかったモデル III の忌避委員会(unpopcom)変数が有意

な値を示すことが確認できる。またオッズ比もその他の変数より高いことが分かる。しかし重回帰分析を用いたモデル III においても忌避委員会変数は有意に近い有為確率を示したため、大きな違いがあったとは言いがたいと思われる。

6. 結論

これまで大韓民国第 18 代国会議員の本会議場の座席割り当ての決定要因について経験的な分析を行い、いくつかの有意な要因が得られた。最初に二大政党所属の全議員を対象とした分析では、当選回数は座席の列と正の関係にあり、選好委員会への所属は座席の列と負の関係であることが確認された。

次に議員の約半数を示している当選回数 1 回の議員のみを対象とし、全議員と政党ごとの分析を行った。このモデルにおいては性別と選考委員会への所属が負の影響を与えることが明らかになった。しかし女性議員に関しては仮説とは逆の方向へ影響を与えることが確認された。政党ごとのモデルにおいては保守系与党のハンナラ党(現在のセヌリ党)は選考委員会への所属のみが仮説通りの方向へ有意な値を示した。それに対して中道革新系野党の民主統合党(現在の民主党)は性別、年齢の変数が仮説とは逆の方向へ影響を与える事が分かった。また、忌避委員会への所属は仮説と符合した。しかし民主統合党のモデルの場合はケースが極端的に少ない事から解釈には注意を要するであろう。

最後に上記のモデルを順序ロジットで分析した結果、重回帰分析とほぼ同様の結果が得られたが、当選回数 1 回の全議員を対象としたモデルにおいては忌避委員会への所属が有意な係数を示した。しかし重回帰分析においてもほぼ有為(p=.059)な有為確率を示した事から大きな違いがあったとは言いがたいと思われる。

7. 今後の課題

この研究にはいくつかの限界がある。まずは当選回数 1 回の議員の座席割り当ての決定要因として考えられる変数が追加されていない点があげられる。特に当選前の職業は何らかの影響を与えると思われる。しかし、この変数に関しては本稿の執筆中に気づいたため、時間の制約により分析に組み入れる事が出来なかった。

また一部のモデルにおいてはケース数が少ない事が指摘できる。これは第 17、19 代国会なども含めて分析する事でケースの数を増やせる事はもちろん、パネルデータとして追跡調査ができる長所があるが、第 18 代国会の座席の特定にも相当なコストがかかったため資料の入手に限界がある。また、パネルデータ分析に関する筆者の知識不足も一因であろう。

最後にモデルの問題だけでなく、一部の変数の係数が仮説とは反対の方向を示した事について本稿においてはその理由を明らかに出来なかった。モデルや必要と思われる統制変数の欠如が原因である可能性もある。これらは筆者の研究経験と方法論的知識の乏しさから起因した事であろう。

8. 参考文献

1. Fenno, Richard F. (1973). *Congressmen in Committee*. Little Brown Company
2. Long, John Scott. (1997). *Regression Models for Categorical and Limited Dependent Variables*. Sage Publication
3. Acock, Alan A. (2012). *A Gentle Introduction to Stata Revised Third Edition*. Stata Press
4. 朴天吾、1998「国会議員の常任委員会の選好性向と動機」『韓国政策学会報』7(1)
5. ガ・サンジュン、2009「18代国会常任委員会構成の特徴」『韓国政党学会会報』8(2)
6. ガ・サンジュン、2012「18代国会常任委員会前半期と後半期の比較研究」『韓国政党学会会報』11(1)
7. 大韓民国国会ホームページ(<http://www.assembly.go.kr/>)
8. 中央選挙管理委員会ホームページ(<http://www.nec.go.kr>)
9. 各政党ホームページ
10. 主要日刊紙（朝鮮・東亜・中央・ハンギョレ新聞）